

大学キャンパスを実証フィールドとした研究による研究推進の試み

大西将徳* (onishi@kura.kyoto-u.ac.jp)、
田上款、浅見智子、菅井佳宣、下郡三紀、大西兼司、
岡本昌彦 (京都大学学術研究支援室)

※関連セッション：9/15(水) 13:50-15:20「大学キャンパス全体のイノベーション・コモンズ化とURAの役割」

勝手に コアタイム！

9月15日(水) (大会2日目)
12:45-13:30
に説明します！
(Zoomに集合 →)



要旨

- ・“大学キャンパスを実証フィールドとした研究”は、学際融合研究や産官学共同研究推進に大きな可能性を持っている。
- ・キャンパス内実証研究は、研究の場・機会となるだけでなく、それ自体が研究シーズの可視化となり、様々なステークホルダーとの共創のきっかけとなる。
- ・安全面、倫理面等に多くの調整が必要なことが課題だが、URAが大きな役割を果たせる機会である。

背景

- ・学際融合研究や産官学共同研究の推進において、研究者や様々なステークホルダーが、多様な研究シーズに触れる機会を増やすことは重要な要素である。
- ・一方で研究発信を目的とした記事執筆、動画作成、イベント実施等は、研究時間を奪ってしまう難しさも持っている。

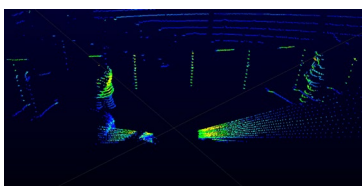
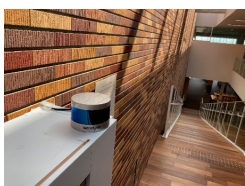


研究活動そのものが研究の可視化に繋がる
仕組み作りができないか？

キャンパスに研究を実装
したらよいのでは！？

京都大学での取り組み

- ・主に工学研究科が展開する桂キャンパスを実証フィールドとして位置づけて研究を推進する取り組みを昨年度開始。
- ・実証研究を希望する研究者に対するワンストップ窓口を URA とし、事務組織と連携。パイロットケースを進めることで承認の会議体等を整理。
- ・今年度、実証研究を推進するファンドを設け、実証研究の受け入れ基盤強化や実証研究ニーズを調査。パイロットケース含め12件の実証研究が今年度中に進む計画。



LIDARを用いた桂図書館内での密検知実証
(左：LIDAR、右：検知データ)

キャンパス内実証研究のメリット

＜実証研究を進める研究者＞

- ・試験実証の現場、機会が得られる
- ・研究の可視化により研究内容の発信

＜他の研究者、企業研究者等＞

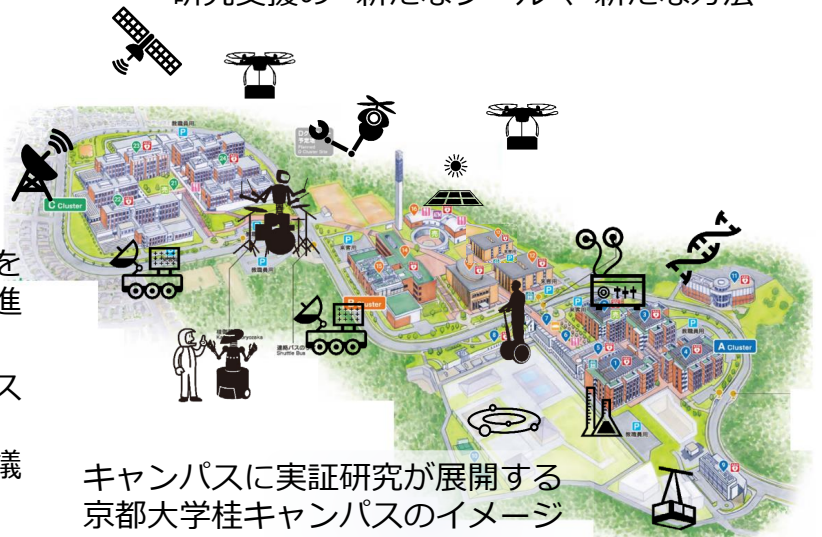
- ・“生きた”研究シーズに日常的に出会える

＜大学・部局＞

- ・実証ニーズの呼び込み、産学連携推進
- ・研究発信、実証現場提供によるキャンパスのブランディング

＜URA＞

- ・研究支援の“新たなツール”、新たな方法



キャンパスに実証研究が展開する
京都大学桂キャンパスのイメージ

キャンパス内実証研究を進める上での課題

- ・安全面、倫理面等に多くの調整が必要。
- ・研究ごとに必要なインフラも様々。



- ・様々なステークホルダーとのコミュニケーションが重要。
- ・研究内容の理解、研究者との協働も必要。

URAが大きな役割を果たせる！



京都大学
KYOTO UNIVERSITY



<https://seeds.t.kyoto-u.ac.jp/>



京都大学 学術研究支援室
Kyoto University Research Administration Office